

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)

【公表番号】特表 2004-526689 (P2004-526689A)

【公表日】平成 16 年 9 月 2 日 (2004.9.2)

【年通号数】公開・登録公報 2004-034

【出願番号】特願 2002-554064 (P2002-554064)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/06

【F I】

A 6 1 K 7/00 J

A 6 1 K 7/00 B

A 6 1 K 7/00 C

A 6 1 K 7/00 F

A 6 1 K 7/00 N

A 6 1 K 7/06

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 9 月 12 日 (2003.9.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ケラチン質物質の化粧処置用の透明な組成物であって、油中水型のエマルションであり、化粧学的に許容される媒体中に、ポリオール及び無機電解質を含む群から選択される少なくとも一種の化合物、少なくとも一種の揮発性シリコーン、少なくとも一種のシリコーン型界面活性剤及び該組成物全質量を基準として、0.5質量%を越える濃度の、少なくとも一種のカチオン性界面活性剤を含み、かつ比：(ポリオール及び/又は電解質)/油が 2 以上であり、該油が少なくとも該揮発性シリコーンを含むことを特徴とする上記透明組成物。

【請求項 2】

該比：(ポリオール及び/又は電解質)/油が 2 ~ 10 なる範囲にある、請求項 1 記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項 3】

該油が、また植物油、動物油、無機油、合成油、脂肪酸エステル及びこれらの混合物から選択される少なくとも一種の化合物をも含む、請求項 1 又は 2 に記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項 4】

該ポリオールが、糖及び C_3 - C_{20} アルキレンポリオールから選択される、上記請求項 1 ないし 3 の何れか 1 項に記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項 5】

該無機電解質が、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム、塩化マグネシウム、硫酸マグネシウム、及びリン酸のナトリウム塩から選択される、上記請求項 1 ないし 4 の何れか 1 項に記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項 6】

該揮発性シリコンが、 $8 \text{ mm}^2/\text{s}$ 未満の、室温及び大気圧下で測定した粘度を持つ、直鎖又は環式のシリコンである、上記請求項 1 ないし 5 の何れか 1 項に記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項 7】

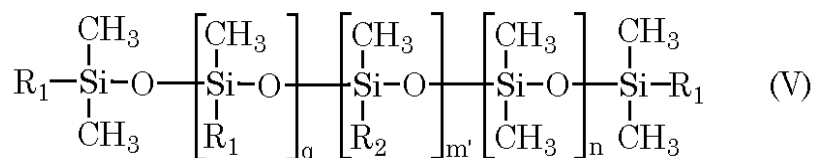
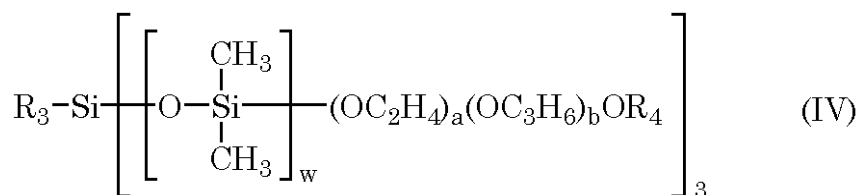
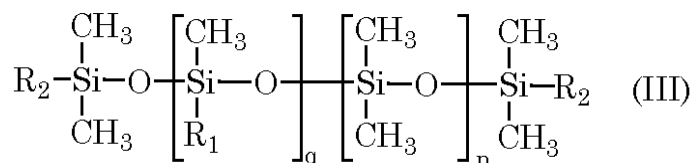
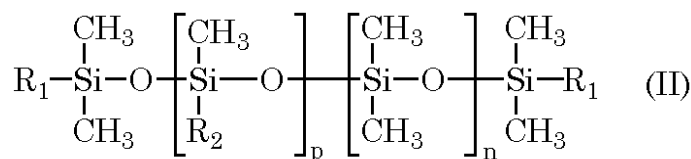
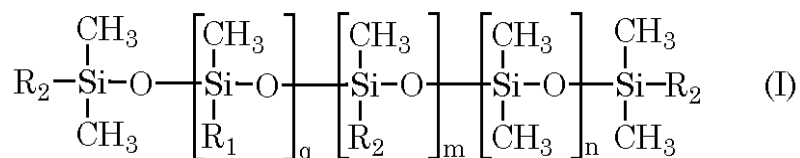
該揮発性シリコンが、

- 3 ～ 7 個の珪素原子を含む環式揮発性シリコン、及び
 - 2 ～ 9 個の珪素原子を有し、かつ $5 \text{ mm}^2/\text{s}$ 以下の 25 における粘度を持つ、直鎖揮発性シリコン
- から選択される、請求項 6 記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項 8】

該シリコン界面活性剤が、以下の一般式 (I)、(II)、(III)、(IV) 及び (V) で示される化合物から選択される、上記請求項 1 ないし 7 の何れか 1 項に記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【化 1】



ここで

- R_1 は同一又は異なっており、直鎖又は分岐 C_1 - C_{30} アルキル基又はフェニル基を表し；
- R_2 は同一又は異なっており、 $-\text{C}_6\text{H}_2\text{C}-\text{O}-(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_a-(\text{C}_3\text{H}_6\text{O})_b-\text{R}_5$ 又は $\text{C}_6\text{H}_2\text{C}-\text{O}-(\text{C}_4\text{H}_8\text{O})_a-\text{R}_5$ を表し；
- R_3 及び R_4 は同一又は異なっており、各々直鎖又は分岐 C_1 - C_{12} アルキル基であり；
- R_5 は同一又は異なっており、水素原子、炭素原子数 1 ～ 12 の直鎖又は分岐アルキル基、炭素原子数 1 ～ 6 の直鎖又は分岐アルコキシ基、炭素原子数 2 ～ 12 の直鎖又は分岐アシル基、ヒドロキシル基、 $-\text{SO}_3\text{M}$ 、 $-\text{OCOR}_6$ 、アミノ基において置換されていてもよい C_1 - C_6 アミノアルコキシ基、アミノ基において置換されていてもよい C_2 - C_6 アミノアシル基、 $-\text{NHCH}_2\text{CH}_2\text{COOM}$ 、 $-\text{N}(\text{CH}_2\text{CH}_2-\text{COOM})_2$ 、アミノ基及びアルキル鎖において置換されていてもよい C_1

-C₁₂ アミノアルキル基、C₁-C₃₀カルボキシアルキル基、1又は2個の置換C₁-C₁₂アミノアルキル基により置換されていても良いホスホノ基、-CO(CH₂)_d(COOM)、-OCOCHR₇(CH₂)_d(COOM)、-NHC(CH₂)_dOH、-NH₃Y基から選択され；

- Mは同一又は異なっており水素原子、Na、K、Li、NH₄又は有機アミンであり；
- R₆は直鎖又は分岐C₁-C₃₀アルキル基であり；
- R₇は水素原子又はSO₃M基であり；
- dは1～10なる範囲で変動し；
- mは0～20なる範囲で変動し；
- m'は1～20なる範囲で変動し；
- nは0～500なる範囲で変動し；
- pは1～50なる範囲で変動し；
- qは0～20なる範囲で変動し；
- aは0～50なる範囲で変動し；
- bは0～50なる範囲で変動し；
- (a+b)は1以上であり；
- cは0～4なる範囲で変動し；
- wは1～100なる範囲で変動し；かつ
- Yは一価の無機又は有機アニオン、例えばハライド、硫酸根又はカルボキシレートを表す。

【請求項9】

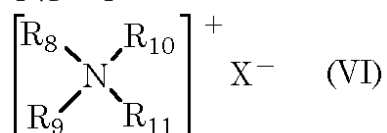
該カチオン性界面活性剤が、ポリオキシアルキレンで修飾されていても良い、一級、二級又は三級脂肪アミンの塩、四級アンモニウム塩及びこれらの混合物から選択される、上記請求項1ないし8の何れか1項に記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項10】

該四級アンモニウム塩が、

- 以下の一般式(VI)で示されるもの：

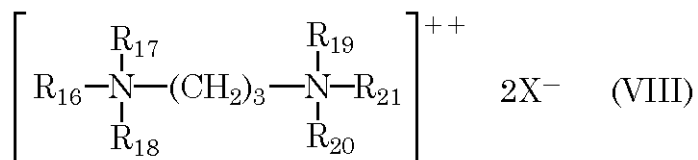
【化2】



ここで、置換基R₈～R₁₁は同一又は異なってもよく、炭素原子数1～30の直鎖又は分岐脂肪族基又は芳香族基、例えばアリール又はアルキルアリール基を表し、Xはハライド、ホスフェート、アセテート、ラクテート、(C₂-C₆)アルキルサルフェート、アルキル-又はアルキルアリール-スルホネートからなる群から選択されるアニオンであり、

- イミダゾリンの四級アンモニウム塩、
- 以下の式(VIII)で示される四級ジアンモニウム塩：

【化3】



ここで、R₁₆はおよそ16～30個の炭素原子を含む、脂肪族基であり、R₁₇、R₁₈、R₁₉、R₂₀及びR₂₁は同一又は異なっており、水素原子又は炭素原子数1～4のアルキル基を含む群から選択され、またXはハライド、アセテート、ホスフェート、ニトレート及びメチルサルフェート基からなる群から選択されるアニオンであり、及び

- 少なくとも一つのエステル官能基を含む四級アンモニウム塩から選択される、請求項9記載のケラチン質物質の化粧処置用透明組成物。

【請求項11】

ケラチン質物質の化粧処置法であって、上記請求項 1 ないし 10 の何れか 1 項に記載の化粧処置用透明組成物を、該ケラチン質物質に適用することを特徴とする、上記方法。